

BGALOGとともに（DXは情報で稼ぐ）

1 BGALOG制作のきっかけ

DXを初めた30年前は当時としては数少ないタワーに20m4ELE、15m5ELEのフルサイズHB9CVにより150カントリー位まではスイスイでアップしていきましたが、その後、100Wでは、なかなか増えなくなってきました。

そんな折り、RTTYであれば珍局がCQCQの連発でカンコウ鳥が泣いているとの事を聞き当時シーター7000が発売されていたが欲を出してオールマイティのパソコン（8ビットのMZ80B）に手を出したのが幸か不幸か現在に続いています。

TRRYのソフトは高松のソフト業者と話をしながら何とかあったが、当時は現在のようにパソコンを持っている方も少ない中でフルスペルQSOでしたが当方はパソコンの為、ソフト（ラバースタンプ）に助けていただき、何とかごまかしが出来ていました。

45baudでラバースタンプQSOを行っていたとき、VKの局にすばらしいスピードとほめられその返信の言葉に対してラバースタンプの登録が無く冷や汗をかいた覚えがあります。

雑魚のJAにでも当時は、RTTYにおいてはIRCが送られてくる状況でした。

こんな中でパソコンを無駄にしないためにと欲が出て業務日誌を考えMSDOSのベーシックで作成を行ったのがきっかけでした。

200データ位を入れるとソートが遅くなり結果として使い物になりませんでした。

2 DOSからWINへ

その後、パソコンもPC-98の16ビットとなりコボル、フォートラン、C言語等個人プログラマーでも何とか購入できる（この頃になり役職もつき生活も安定してきたため）金額となり、ソフトも色々と増え始めそれらのソフトに手を出しましたが、スピード、カラー、ボタン等のツールの問題等、なかなか使えるソフトがありませんでした。使えるようになったのは、結果としてDBII（DBaseII）の簡易ソフトで初版と言えるものが作成できました。

ソコソコ使用することが出来、一部の方から使用させてほしいとのことでユーザーが増え始めましたが、マイクロソフトのシステムがバージョンアップの都度、そのソフトが対応出来なくなり泣かされることとなりました。

WINDOWSが開発されたことをきっかけに「大きいものには巻かれろ」の意識でDOSでの作成をあきらめ当時発売されていたVB4に委嘱し、現在のVB6となっています。

当時は、パソコンの更改、プログラム使用契約（コンパイラー）、等々、毎年100万円位はつぎ込んだと思います。

3 LOG作成における基本的スタンス

パソコンを使いこなし無線の道具とするため、**可能な限り多機能化**し、無線にのみ傾注できるようにする。

- ・ 極力自動入力とする。⇒ 取れる情報、現存データはキーボードから再投入しない
- ・ 多くの情報を記録する。⇒ セカンドQSOへの話題のため必要情報を保存

- ・ 入力したデータは必ず検索出来る様にする。⇒ 複合検索の強化
- ・ 極力周辺機器を自動化する。⇒ リグコントロール
- ・ 検索機能を強化し効率的なQSOを行う⇒ 重複QSOチェック
- ・ 確実な回収のためのデータ提供⇒ QSLマネージャ情報をNWより自動取得し活用する。
- ・ テルネット等情報の活用⇒ その都度、DX局との交信状況・カード受領状況を提供する

4 情報量が多いが「聞こえない・飛ばない」(ANTの強化)

ブリテン記事「ブリテン抜粋¥抜粋記事¥ベアフットマンの苦闘 (JR5ACV)」にあるように当方も同様な日々を送っていました。

各局の設備が良くなり折角の情報がありながら“聞こえない”。あわれ、ミニパワーでは呼んでも“届かない”。

このことから地上高アップとして3本目のアンテナとしてルソーNS28 (マストを9mでトップ35m) としたがそれでも (TA-371等) JAでは、まだ標準であり、IC-7800の200wでは短縮アンテナのためになかなか珍局は取れなく苦労していました。(現在パンザは撤去しタワーは2台)

5 チャンスを逃さないためBGAログ自動チェック機能の付加

テルネットに表示される都度、自局のLOGと自動チェックする機能を付け音で鳴り分けをするようにBGALOGを強化しました。(JA近辺からの登録等、フィルター機能の強化)

これでまた、いち早く多くの情報を得ることが出来る様になりペディションを逃すことなく取り組めるようになりましたがやはりローバンドは200Wでは苦戦をとなり、ペディションも終盤ぎりぎりでは取れませんでした。

6 再度アンテナの強化

このことから、やはりアンテナ強化の必要性を感じ、どうせやるならフルサイズとの考えで7メガ~10メガを2エレ、14から上を4エレのCQに変更しました。

情報量の増とアンテナの強化の結果、他の人に聞こえないところが呼べるようになりDXCCを初めて30年ぶりにオーナーロールとなることが出来ました。

14、21メガは皆さんもアンテナが良く現在でも厳しいですが、昔からの長年のQSOで10年毎のコンディションの良い時代を3回も経験させていただいていますので現在はあまりQSOする必要はなくなっています。(穴はたくさんありますが)

コンディションが悪くなる時期にローバンドを強化したこともあり、ローパワーでも少しずつ増えつつありますが、1.9Mは中々増えません未だ50ソコソコです。

3.5MもCD-78L (24m長) としていますが、まだ、170カントリーソコソコです。しかし、7-10メガはよく聞こえるようになり皆さんに聞こえていないのか、パイルが少なく共に順調に伸ばすことが出来250カントリーを超えることが出来ました。

ただし、このCQはメンテナンスが大変です。特に、7~14メガは何度もトラブルに遭遇しています。

7 退職により時間に余裕⇒チャレンジ賞に挑戦

最近は、このフルバンドに出る事が出来る強み、また、退職により時間に余裕（サンデー毎日）、ログの自動チェック機能によりチャレンジ賞と言う新たな目標が出来ましたので挑戦をしています。

8 EDXGメンバーのおかげ

これまで40数年間（DXを積極的に初めてから30年あまり）長く続けることが出来たのもEDXGの皆さんの情報提供とアンテナ等の設備改善に尽力をいただき、また、59会等のおつきあいをいただいたことによるものと思います。

今後は、サイレントキーになるまでに何とかチャレンジ賞を2500位にまでしたいものと思います。

9 40周年の節目の世話役をさせていただいた事への感謝

この記事や、皆さんの資料をお借りして書類の整理をさせていただきなから、昔のことを色々と思い出し懐かしく感じています。

良い機会にお世話をさせていただきましてありがとうございました。

今後もコールサインに負けられないように頑張りたいと思います。

DE JA5BGA (Big Game Adventure) Shin